

第2回 永久歯の抜歯原因調査

平成30（2018）年11月

公益財団法人8020推進財団

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、全国の歯科医院における抜歯処置の主な原因を調査することにより、歯の喪失状況についての基礎資料を得るとともに、歯科保健の普及啓発を推進することを目的とする。

2. 調査対象・対象数

平成 17(2005)年の第 1 回調査と同様に日本歯科医師会の一般会員を調査対象とし、日本歯科医師会へ対象者抽出の依頼を行った。

調査対象数は日本歯科医師会の第 1 種会員（会員数 51,240 人、平成 30(2018)年 4 月 1 日現在）から系統抽出した 5,250 人とした。

3. 調査時期

平成 17(2005)年の第 1 回調査と同様に調査期間を 1 週間と定めた。調査時期は平成 30(2018)年 6 月 4 日(月)～ 6 月 10 日(日)の 1 週間とし、この期間中に行われた抜歯処置に対し、予め郵送した質問紙への記入を依頼した。

質問紙の回収(投函)締め切り日は、6 月 17 日(日)としたが、7 月 31 日(火)までに回収された調査票を有効票として扱った。

4. 調査方法

郵送法による質問紙調査とした。

調査対象となる歯科医院で抜歯処置を受けた患者の症例を質問紙に記録する方法を用いた。

5. 回収数(率)

5,229 人を調査対象者数とした。調査票は 2,345 人から協力(回収)いただき、回収率は 44.8%であり、前回調査よりも約 6%上回った。

6. 倫理審査

本研究は日本歯科医学会の研究倫理審査の承認(平成 30(2018)年 3 月 22 日)を受けた。

○本調査に関する問合せ先
公益財団法人 8020 推進財団
東京都千代田区九段北 4-1-20
歯科医師会館内
Tel : 03-3512-8020
Mail:8020@8020zaidan.or.jp
<https://www.8020zaidan.or.jp>

調査結果のまとめ

1. 抜歯原因等

1) 抜歯の主要原因

- 抜歯の主要原因別の割合で最も多かったのは歯周病（37.1%）、次いでう蝕（29.2%）、破折（17.8%）、その他（7.6%）、埋伏歯（5.0%）、矯正（1.9%）の順となった（図1）。
- 抜歯の主要原因ごとの抜歯数と割合を年齢階級別にみると、う蝕の割合は40歳以降減少し、80歳以降再びやや増加した。歯周病と破折の割合は、35歳以降で年齢とともに高くなり、60歳以降ではほぼ一定であった。
矯正の割合は20歳未満で、その他の割合は20～30歳代で、それぞれ他の年齢階級に比べて多かった（図2、図3）。
- 前回調査に比べう蝕と歯周病の割合がやや減少し、破折が増えた（図4）。なお、「埋伏歯」は本調査から新たに選択肢として項目を設けた。
- 破折の割合が増えたのは、う蝕や歯周疾患等による抜歯が減少するとともに、抜歯処置を受ける年齢が高くなっていること等の影響があったのではないかと推察されるが、今後の検証を要する。

2) 抜去歯の状態

- 抜去歯の状態の割合は、冠が37.0%と最も多く、次いで、う蝕（34.1%）、健全（18.6%）、充填（8.5%）の順であった（図5）。

2. 調査を行った歯科医院（院長）および患者の属性

1) 歯科医院（院長）の属性

- 回答者の男女比は大半が男性（89.8%）。前回調査（平成17(2005)年）に比べ女性割合が若干増加した。
- 平均年齢は、56.9歳（SD=9.5）で、前回調査に比べて約6歳高かった。

2) 患者の属性

- 抜歯処置を受けた患者数は計6,541人で、わずかに女性が多かった。平均年齢は、58.5歳で男女ほぼ同じ（男性58.3歳、女性58.6歳）であった。
- 抜歯を受けた患者の基礎疾患の状況は、「基礎疾患なし」が57.5%、「高血圧」が25.2%、「糖尿病」が7.5%、「心疾患」が6.3%、「脂質異常」が4.0%、「その他」が15.1%であった（図6）。

3. 抜歯数

1) 歯単位の分析

- 調査期間中（7日間）の総抜歯数は8,003本であった。抜歯数が最も多い年齢階級は65～69歳で、前回調査（2005年）の60～64歳より高齢となっていた（図7）。

2) 患者単位の分析

- 抜歯処置を受けた患者あたりの抜歯数の平均は1.22本（SD=0.61本）となり、前回調査（平成17(2005)年）とほぼ同じであった。
- 患者1人あたり抜歯数の分布は、抜歯数1本が全体の8割、次いで2本、3本の順で、前回調査と同様の傾向であった。

3) 歯科医院単位の分析

- 調査期間内（7日間）における歯科医院あたりの抜歯数の平均値は3.41本であり、前回調査（平均値4.67本）よりも低い値であった（表1）。

4. 基礎疾患と喫煙状況の分析

1) 基礎疾患

- 抜歯処置を受けた65歳以上の者の場合、基礎疾患の状況ごとに抜歯に至った主原因は、いずれの疾患も歯周病が原因で抜歯に至った者が最も多かった（図8）。
- 糖尿病では歯周病が原因で抜歯に至った割合が55.0%と他の疾患と比較して最も高い割合を示した（図9）。

2) 喫煙状況

- 抜歯処置を受けた40歳～69歳の者で、喫煙の有無別に現在歯数の割合をみると、喫煙者では、1～9本、10～19本または20～23本の割合が非喫煙者に比べて多く、24～27本または28～32本の割合は喫煙者に比べて非喫煙者が多かった（図10）。
- 抜歯処置を受けた40歳～69歳までの者で、喫煙の有無別に抜歯の主原因の割合をみると、喫煙者および非喫煙者ともに、う蝕の割合に大差はなかった。一方、歯周病が原因で抜歯に至ったケースでは、喫煙者では48.0%、非喫煙者では38.7%となっており、喫煙者の方が1割程度の差で高い割合を示した（図11）。

調査結果

1. 抜歯原因等

1) 抜歯の主原因

図1 抜歯の主原因別の割合

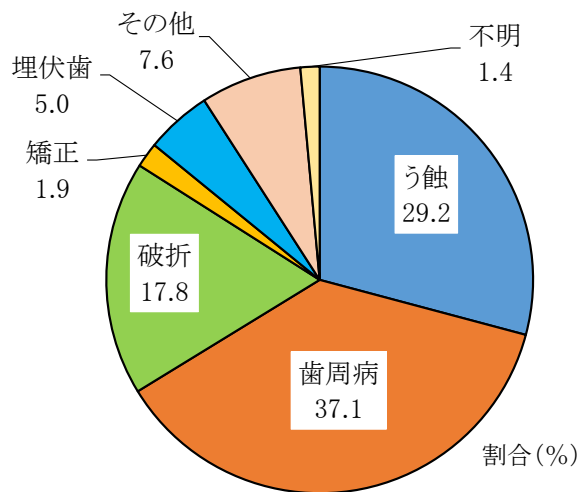


図2 抜歯の主原因別にみた抜歯数 (年齢階級別、実数)

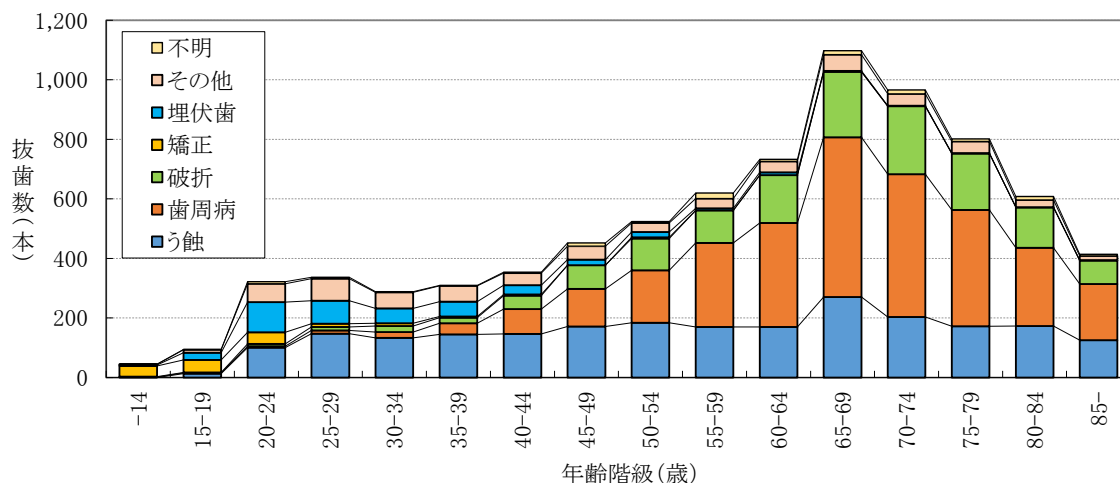


図3 抜歯の主原因別にみた抜歯数の割合 (年齢階級別、%)

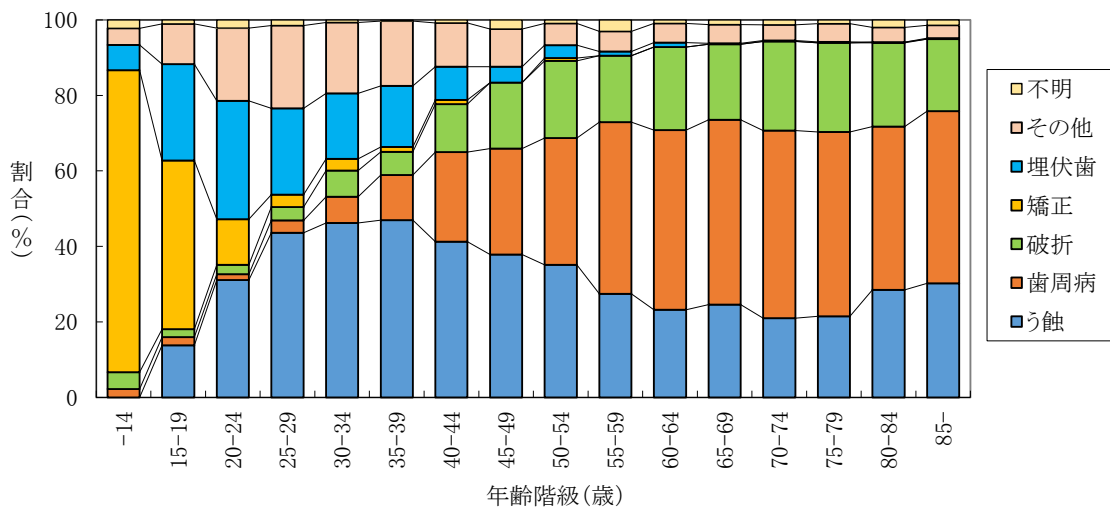
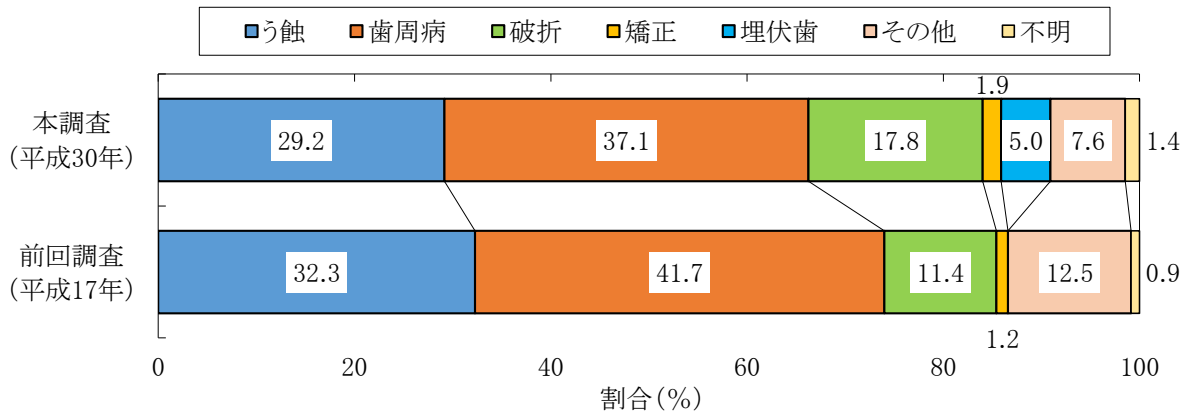
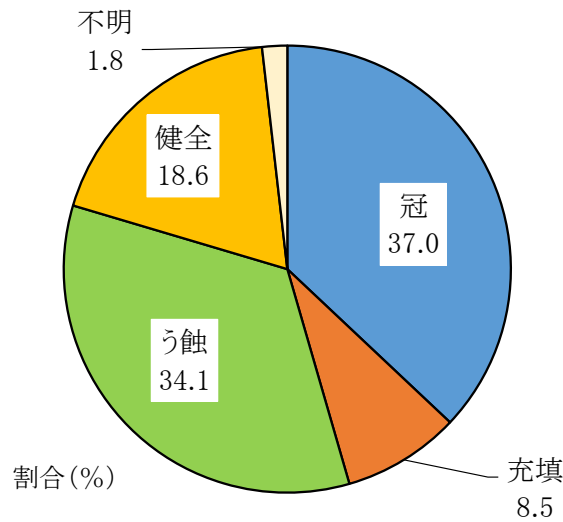


図4 抜歯の主原因別にみた抜歯数の割合の前回調査との比較



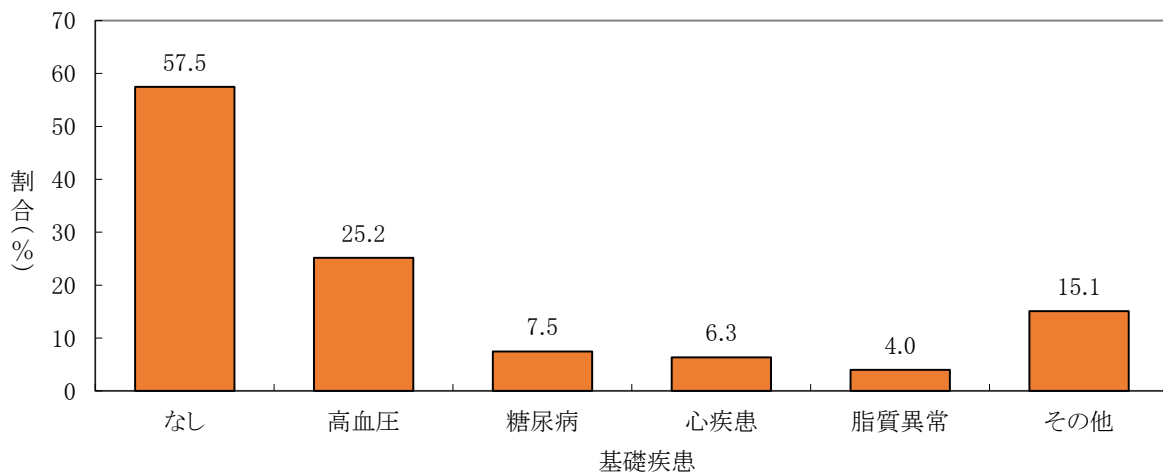
2) 抜去歯の状態

図5 抜去歯の状態の割合 (全体)



2. 調査を行った歯科医院 (歯科医院長) および患者の属性

図6 抜歯処置を受けた患者の基礎疾患の種類別割合



3. 抜歯数

図7 年齢階級別の総抜歯数

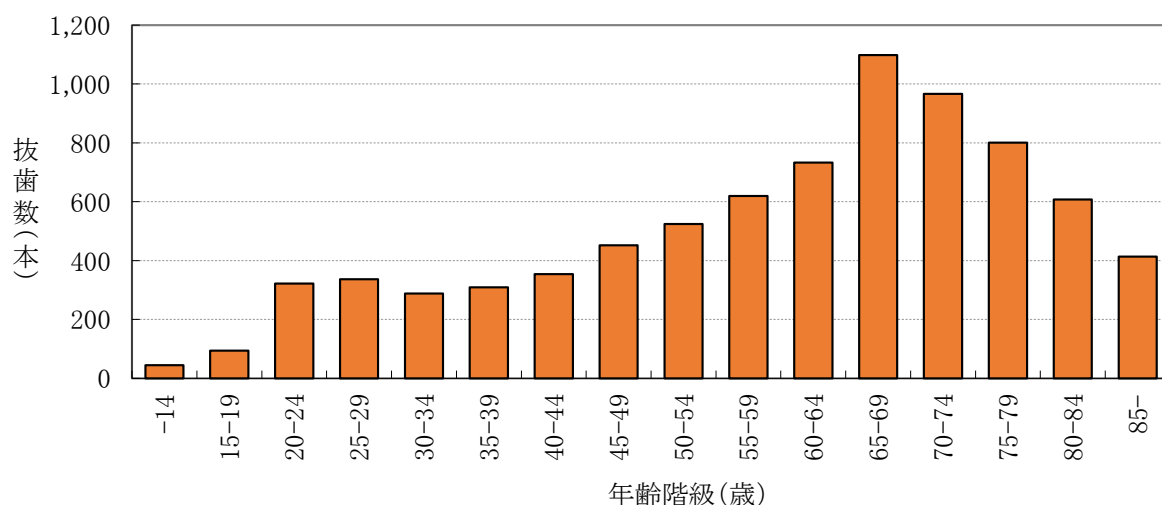


表1 調査期間内(7日間)の歯科医院あたりの平均抜歯数(歯科医院単位)
(前回調査との比較)

	本調査 (平成30年)	前回調査 (平成17年)
回答者数(人)	2,345	2,001
平均(本)	3.41	4.67
SD	3.68	4.37
最小値	0	0
25%値	1	1
中央値	2	4
75%値	5	7
90%値	8	10
95%値	11	13
最大値	30	34

4. 基礎疾患と喫煙状況の分析

1) 基礎疾患

図8 基礎疾患の状況(65歳以上、抜歯主原因別、人数)

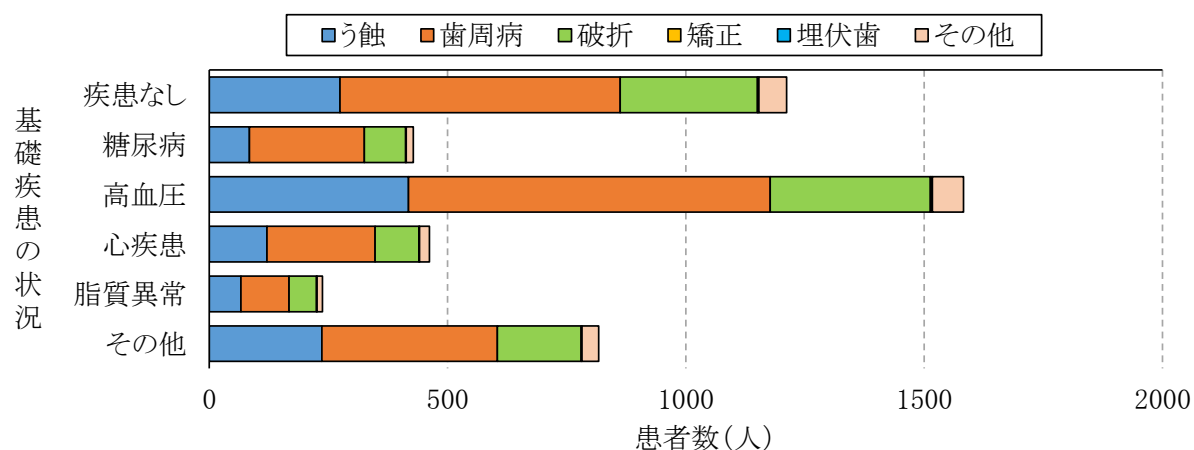
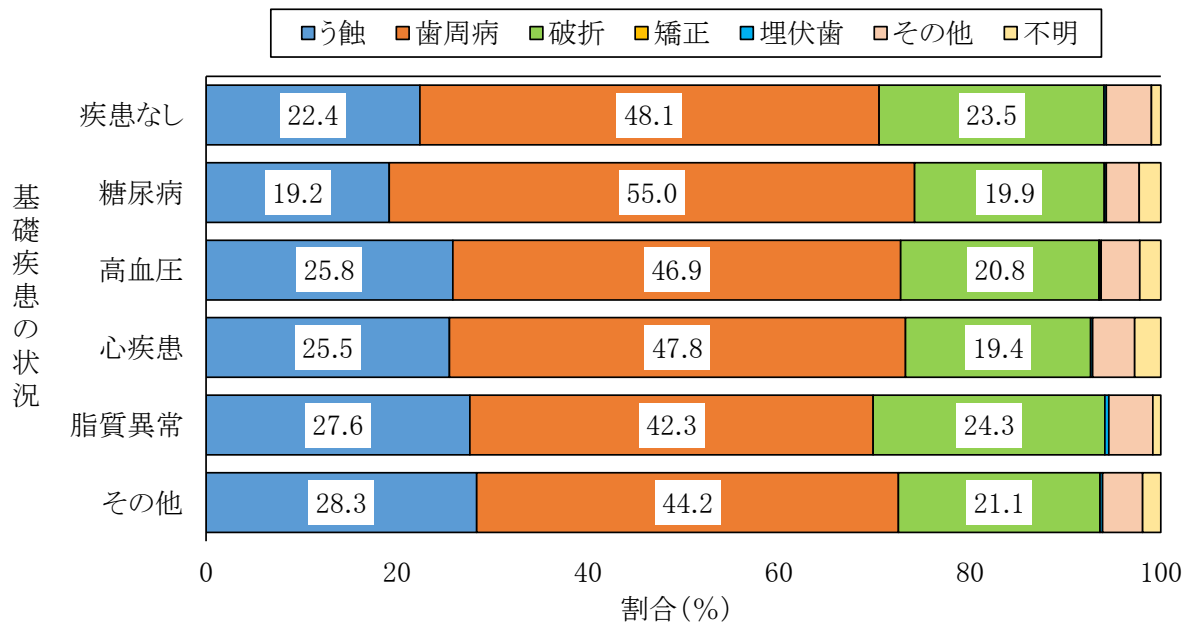


図9 基礎疾患の状況 (65歳以上、抜歯の主原因別、%)



2) 喫煙状況

図10 喫煙の有無 (40~69歳、現在歯数別、%)

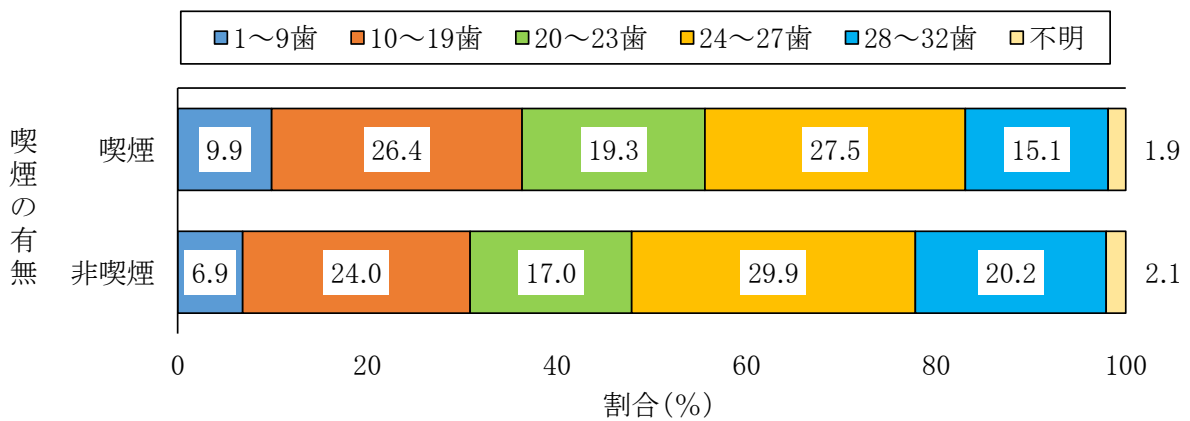


図11 喫煙の有無 (40~69歳、抜歯の主原因別、%)

